

首都圏の都市成長前線帯 における小売商地域の形成(Ⅱ)

——埼玉県毛呂山町の場合——

田 村 正 夫

目 次

- I 序
- II 研究対象地域
- III 小売商地域の形成
 - 1 概 観
 - 2 地域的展開 (1) 形態と業種 (2) 形態と前住地 (3) 業種と前住地
- IV 結 語

I 序

筆者は、先に第1報⁽¹⁾において、埼玉県毛呂山町長瀬団地における小売商地域形成の **mechanism** を分析し、団地及び隣接地区では、東京の新興市街地域にみられるような集落景観及び経済文化圏が構成されていることを論じた。長瀬団地は、一朝にして山林変じて住宅地となり、商業経営の立場からみれば、紛れもなく **market** の突発的な誕生をみた台地地域である。これに対して、溪口集落である毛呂及びその西方の谷底平野、あるいは台地ではあっても小規模団地、もしくは都市化以前の集落を主要市場とする小売商地域では、立地が都市化に対していかに対応するかを明らかにするのが、本稿の目的である。⁽²⁾

筆者は、かつて、杉元邦太郎 (1972) : 人口急激地域下における地方小商店街の存立形態——島根県下十町村の場合⁽³⁾——に対して、各町の機能的性格を問題にした。森川洋も、杉元の発表に関して、両市の浸透度が「距離的關係よりも両市の機能的性格によることは興味ある問題である」⁽⁴⁾と指摘している。都市を機能的にとらえる場合、都市化の基本的な考え方としては、「都市は地域の上に

咲いた花⁽⁵⁾」という概念が妥当する。そして都市化の最も単純な形態は、地方町においてみられる。地方町とそれを回る地域は、個人面識的性格を基底にもちながら、おおむね固定化された社会地域を形成するといわれるが、首都圏の都市成長前線帯⁽⁶⁾にあっては、かかる性格をもつ地方町が、首都圏の都市地域へと組み込まれつつある。

高野史男は、西南日本 130 都市の D I D 人口規模と第 2 次産業就業率を検討して、比較的大きな都市は多く歴史的基盤をもち、しかもその後の都市的発達を主としてその基盤に生育した第 3 次産業に負っており、ある一定のランク以上の都市では第 2 次産業よりも第 3 次産業の方がその存立基盤として重要であるとしている。⁽⁷⁾これは、商業が逆説的には共食いの側面をもつために起こる当然の結果であって、むしろ小売商地域形成の mechanism の変化が、どのような process をたどるかを究明すべきである。地理学が「歴史学とともに、きわめて総合的かつ現実的に社会の発展を調査し、記述説明する科学であり、現実社会が時代的に進展・進化し、地域的に展開している実態を論理的・体系的に認識し、理解するための科学である」⁽⁸⁾以上、このような approach ⁽⁹⁾が必要なのである。

小売商地域形成を分析するために必要な資料は、主として聞き取り調査によった。調査対象は毛呂山町域の小売・サービス業全店舗⁽⁹⁾ 427 である。調査項目は、①業種、②現地創業年、③前営業地・前住地の創業年、④移動理由、⑤景況の 5 項目である。過去における小売・サービス業の業種別分布を明らかにする統計または調査資料を、入手できないので、現在立地する小売・サービス業者⁽¹⁰⁾を調査対象として、変ぼうの process を考察したのである。

II 研究対象地域

AMR 地域市場分布図⁽¹¹⁾によって、研究対象地域である毛呂山町を、marketing の観点から検討する。1965 年の人口密度図⁽¹²⁾をみると、毛呂山町は、佐倉市、日高・沼南・白井・酒々井各町、三芳・伊奈谷村、東松山・飯能・青梅・秦野・市原・取手各市の 1 部、伊勢原・幸手・蓮田・四街道各町の 1 部とともに、首

都圏周縁の100人/1km²以下地域である。このころ都市化が、その緒についたことを示している。毛呂山町は、また東松山・加須・佐倉・市原三郷各市、坂戸・鶴ヶ島・日高・栗橋・鷲宮・幸手・菖蒲・白岡・宮代・杉戸・庄和・吉川・沼南・白井・酒々井各町、大利根・伊奈・松伏各村とともに、第1次就業人口⁽¹³⁾30%以上であって、低度の都市化地域となっている。首都圏を核心・周縁・縁⁽¹⁴⁾辺に3区分すると、一般に人口増加率が高いのは、周縁である。しかし毛呂山町は縁⁽¹⁴⁾辺に位置しながらも、人口増加率が高い。この点は、相模原・町田・柏⁽¹⁵⁾・佐倉・千葉・市原各市と共通する。このような人口の高増加率が、通勤人口⁽¹⁶⁾によってささえられていることは、昼夜人口比の分布⁽¹⁶⁾によって明らかである。すなわち、毛呂山町は世田谷区、三鷹・小平・町田・秦野・松戸・船橋・八千代・伊勢原・稲城・桶川・三郷各市、栗橋・四街道・酒々井・大利根各町と同様の80~84%地域である。昼夜人口比の大きい地域が、周縁及び縁⁽¹⁷⁾辺(とくに核心と西部)にみられるのは、核心への通勤のほか、周縁及び縁⁽¹⁷⁾辺への通勤が行なわれることを物語っている。このことは、事業所増加率⁽¹⁷⁾の高い地域が周縁に分布していることと符合する。すなわち、相模原・大和・東村山・稲城・田無・朝霞・鳩ヶ谷・柏・八千代・習志野・座間・海老名・上福岡・三郷・鎌ヶ谷・東大和各市、戸塚区、綾瀬・多摩・富士見・鶴ヶ島・八潮・伊奈各町は150%以上である。毛呂山町は、茅ヶ崎・府中・調布・保谷・小平・戸田・東久留米・清瀬・新座・越谷・草加・流山・松戸各市、秋多・大井・三芳各町とともに上述の地域に次ぐ増加率(130~149%)をみせている。毛呂山町の小さい昼夜人口比は、核心から遠ざかるにしたがって、同比の大きい地域が、板橋区・川口市、さらに川越・狭山・入間各市、鶴ヶ島町と断続的にみられたのちに、西北⁽¹⁶⁾隣にあらわれている。

⁽¹⁸⁾商店密度では、東京区部とその隣接地、川崎、横浜、横須賀が50店/1km²以上の高密度地域である。毛呂山町は、東松山・飯能・狭山・入間・所沢・八王子・町田・厚木・秦野・鴻巣・上尾・加須・春日部・岩槻・野田・流山・柏・取手・安孫子・八千代・佐倉・市原・稲城・新座・和光・武蔵村山・北本・桶川・久喜・三郷・鎌ヶ谷・多摩・伊勢原・海老名各市、羽村・坂戸・鶴ヶ島・

日高・大井・富士見・菖蒲・鷺宮・栗橋・幸手・白岡・杉戸・宮代・蓮田・庄和・吉川・八潮・沼南・白井・四街道・酒々井・瑞穂・秋多・綾瀬・寒川・大磯・橘・葉山各町，横浜港北区，三芳・大利根・伊那・松伏各町とともに，広範な20店/1km²以下の低密度地域にはいる。

ところが，人口1,000人あたりの商店数をみると，20店以上の地域は東京13区(旧市内)，横浜西・中両区，浦安町のほか，立川・福生・古河・青梅・飯能・川越・東松山・加須・取手各市，栗橋・幸手各町など縁辺北部が主で，南部には大和市があるに過ぎない。毛呂山町は，かかる縁辺北部(とくに青梅・飯能・東松山・川越)に囲まれた縁辺⁽¹⁹⁾15店以上地域の一環である。また，商店1店あたり年間販売額をみても，高額地域(3,000万円以上地域)の分布は，前述の人口1,000人あたり商店数20店以上地域と類似の傾向がみられ，北・荒川両区を除く東京13区，横浜西・中・神奈川3区，立川・与野両市に集中する。しかし縁辺北部は一般に低額であり(2,000円未満)，毛呂山町は朝霞・戸田・東大和・入間・武蔵村山・清瀬・東松山・加須・岩槻・流山・取手・我孫子・佐倉・秦野・北本・三郷・鎌ヶ谷・上福岡・海老名各市，坂戸・鶴ヶ島・日高・吹上・菖蒲・久喜・鷺宮・栗橋・幸手・杉戸・宮代・白岡・蓮田・庄和・吉川・八潮・沼南・白井・酒々井・大井・富士見・瑞穂・羽村・秋多・綾瀬・寒川・大磯・二宮・橘・葉山各町，横浜金沢区とともに，1,000万円未満地域である。

すなわち，毛呂山町をふくむ縁辺北部地域は，単位面積あたり商店密度及び商店1店あたり年間販売額がともに低い小規模商店が多く，人口1,000人あたりの商店数が多くあらわれている。これは，都市化による商店形成の初期ともいべき乱立期にあたり，やがて競合の process を経て，小売商が淘汰されるものとみられる。いいかえれば，市場としての人口が少なく(人口密度の低率)，第1次産業人口が比較的多い低度の都市化地域であるが，近年の人口増加率・事業所増加率が高く，昼夜人口比の小さいことからうかがわれるような衛星都市的性格が強いのが毛呂山町の特性である。

小売商の市場としての人口を定性的に検討するために，所得額の分布をみよ⁽²¹⁾う。普通，計上される所得額は，もちろん財産額とは符合しない。とくに毛呂

表 1 近隣7市町の地元購買率

(単位 %)

区分	買物場所																															
	買物品目																															
1	A													B																		
	日用飲食料品	肉野菜・魚・果実	金物・荒物	日用品雑貨	高級食料品	呉服・反物	寝具	男子既製服	婦人子供服	男女洋品	下着・肌着	紳士靴	婦人靴	袋物・ハンドバッグ	家具(大物)	家具(小物)	電気機械器具	農業用機械	医薬品	化粧品	書籍・図書	文具	玩具	レコード・楽器	時計・指輪	生花						
2	94	97	81	93	28	79	25	51	18	35	44	58	39	28	22	15	22	27	66	59	17	42	80	73	81	88	43	31	33	77	63	52
3	93	91	82	91	47	81	23	37	19	28	34	54	33	33	33	23	30	29	54	59	39	45	73	67	67	85	45	37	42	61	60	52
4	92	86	70	82	22	71	17	21	16	22	22	50	25	15	16	9	13	22	34	36	27	30	57	37	43	58	20	3	6	22	31	35
5	87	83	65	82	23	68	13	63	10	20	27	55	24	13	13	10	12	8	28	47	13	24	72	62	58	70	17	7	13	30	41	36
6	98	93	97	87	56	86	67	71	61	77	72	89	73	61	71	66	66	38	57	74	18	47	82	82	72	89	67	33	66	66	70	70
7	92	91	89	91	68	86	69	83	63	81	80	88	77	75	67	69	70	76	85	78	23	65	85	83	79	90	80	70	66	76	79	77
8	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
9	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
10	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
11	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
12	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
13	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
14	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
15	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
16	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
17	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
18	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
19	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
20	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
21	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
22	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
23	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
24	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
25	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
26	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72
合計	92	92	90	94	64	87	50	74	52	65	67	85	66	65	57	54	59	56	73	76	41	62	84	82	80	89	72	67	58	77	77	72

(注) 埼玉県商工部中小企業総合指導所(1970): 埼玉県広域消費動向調査資料 pp. 24~36, 33~34から算出。

山町における在来者は、地価の高騰に伴う財産額の膨張をみているので、この点に留意する必要がある。

首都圏全域を10,000とした各市町村の所得構成比20以上地域と、1人あたり平均所得額60万円以上地域はほぼ重なり、東西方向の zone をなしている。すなわち所得構成比では、千葉・船橋・市川・東京区部・川崎・横浜(除西・中・磯子3区)・藤沢・横須賀各市のように、100以上地域が帯状に分布し、続いて50~99地域が、柏~松戸、大宮~川越、武蔵野・三鷹・調布・府中・小金井・小平・立川・八王子・町田・相模原、横浜(西・中・磯子各区)・鎌倉・茅ヶ崎・平塚・小田原各市のように、ひとで状に隣接する。また1人あたり平均所得額80万円以上地域が、東京区部の山手地区と中央区、三鷹・武蔵野・保谷・調布・府中・小金井・小平・国立・東久留米各市、港北(横浜)、鎌倉・逗子両市、葉山町に分布し、70~79万円地域が、これを取り巻く地域と千葉県(流山・柏・松戸・市川・船橋・八千代・習志野各市)、埼玉県(浦和・与野・和光・上福岡各市)に、60~69万円地域が、台東・中央を除く東京下町地域のほか、一般に70万円以上地域に接して分布する。

毛呂山町は、上記の zone の外側にあたり、50万円未満の低所得地域、10未満の低所得構成比地域の一環である。したがってすでに指摘したように、町内⁽¹⁾

表 2 近隣7市町の小売業

市町名	商店数		従業者数		年間販売額 (万円)		1店あたり 年間販売額 (万円)		従業員1人あたり年間販売額 (万円)	
	1966	1970	1966	1970	1966	1970	1966	1970	1966	1970
毛呂山町	206	251	467	688	91,535	217,150	445	865	196	316
坂戸町	379	414	1,144	1,278	210,826	506,182	556	1,223	184	396
日高町	222	255	480	597	88,626	200,543	399	786	185	336
鶴ヶ島町	92	146	195	403	44,205	211,342	480	1,448	226	524
越生町	192	184	513	407	90,840	131,848	473	717	177	324
川越市	833	2,148	2,542	7,588	606,484	3,964,032	1,014	1,808	338	522
東松山市	676	737	1,898	2,303	474,436	980,633	700	1,331	250	426

(注) 通産省(1966・1970)：商業統計調査から算出。

の長瀬団地では、低廉な不動産を入手した所得階層を主とする market を背景とする低物価現象をみたのである。

川越市以北東松山市以南における急速な都市化があらわれたのは、1965年以降であり、毛呂山町における都市化の最も大きな波は、長瀬団地の形成⁽¹⁾である。小売商地域形成に関連の深い地元購買率を検討すると(表1)、坂戸・毛呂山・日高・鶴ヶ島と川越・東松山との相違は、B(衣料品)・C(身近細貨品)・D(家具類)各群の比率が前者では低率であるのに対して、後者ではそれよりもはるかに高率な点である。一方、越生はむしろ後者に近いが、これは都市化のおくれを示している。すなわち、在町的なまとまりをもつ「越生」→他市町への依存度が高まった「坂戸・毛呂山・日高・鶴ヶ島」→衛星都市的な発展を遂げた「川越・東松山」という3段階をあらわしている。

次に、小売業を市町別に比較すると(表2)、毛呂山町では、川越・鶴ヶ島に次いで商店数の増加率が高く、また相対的には、1店あたり年間販売額は上昇したが、同じく従業員1人あたりのそれは下降の傾向をたどっている。毛呂山町における商店数の増加や1店あたり年間販売額の上昇は、長瀬団地の形成を契機とする都市化に伴う小売商の増加を物語っている。

毛呂山町は、八王子構造線によって、東西に分かれる。西部山地は秩父山塊の東縁にあたり、標高300~400mの低山性の山稜が連なる。毛呂山町面積の約1/3をしめる山林のほとんどは、西部山地に分布する。西部山地の山稜を水源とする毛呂川・阿諏訪川・大谷木川は、いずれも東流して北辺を流れる越辺川に合流し、宿谷川は南辺を流れる高麗川に合流する。構造線の東部は関東平野の西端にあたり、上述の河川にはさまれた40~70mの台地が広く連なる。町の南境と北境に第三紀層丘陵があり、東に向かって漸次低下する。台地は、洪積層が東部に行くほどローム層が厚く、北部の越辺川

表3 毛呂山町の世帯数

地 区	世帯数	%
毛 呂 山	1,903	36
川 角	812	16
団 地	2,478	48
う(長瀬団地※ ¹)	1,838	(36)
ち(学園台※ ²)	569	(11)
総 計	5,193	100

(注) 1973年2月配給人口。※1南台団地をふくむ ※2毛呂山台・日生団地・角木団地・日化団地をふくむ。

する毛呂川・阿諏訪川・大谷木川は、いずれも東流して北辺を流れる越辺川に合流し、宿谷川は南辺を流れる高麗川に合流する。構造線の東部は関東平野の西端にあたり、上述の河川にはさまれた40~70mの台地が広く連なる。町の南境と北境に第三紀層丘陵があり、東に向かって漸次低下する。台地は、洪積層が東部に行くほどローム層が厚く、北部の越辺川

沿岸低地は沖積層である。⁽²²⁾

Ⅲ 小売商地域の形成

1 概 観

世帯数と商店数を検討すると(表3・4), 前者では毛呂山と長瀬団地, 後者では長瀬と毛呂, 東毛呂と川角が, それぞれ⁽²³⁾伯仲する。川角は, 学園台⁽²³⁾とともに長瀬の商圈にもはいつているために, 世帯数の割合に商店数が少ない。

業種別にみると, サービス業と日用・食料品商が主体となっている。スーパーマーケット・身近細貨品商は毛呂・長瀬にかぎられ, 集落形成が古かった毛呂では, 履物・靴・傘などの身近細貨品商, それが新しい長瀬では, 毛呂よりも規模の大きい⁽²⁴⁾スーパーマーケットが, 各多い。店舗総数中, 最大をしめるサービス業も, 長瀬に次いで毛呂に多い。学園台は城西大学の立地のために, また鎌北は, 観光地鎌北湖の **impact** によって, とくにサービス業の比率が高いのに対して, 川角は, 長瀬

表 4 業種の分布

	一 般 小 売 業					サ ー ビ ス 業	ス ー パ ー マ ー ケ ッ ト	計
	日 用 ・ 食 料 品	衣 料 品	身 辺 細 貨 品	家 具 類	文 化 品			
長 瀬 ^{※1}	56	10	2	13	15	57	4	157
	36	6	1	8	10	36	3	100
	40	44	33	24	37	37	50	37
毛 呂	49	6	4	24	17	53	3	156
	31	4	3	15	11	34	2	100
	35	26	67	44	41	34	50	37
東 毛 呂	14	2	—	9	4	16	—	45
	31	4	—	20	9	36	—	100
	10	9	—	16	10	10	—	10
川 角	16	4	—	9	3	5	—	37
	43	11	—	24	8	14	—	100
	11	17	—	16	7	3	—	9
学 園 台 ^{※2}	6	1	—	—	2	18	—	27
	22	4	—	—	7	67	—	100
	4	4	—	—	5	13	—	6
鎌 北	—	—	—	—	—	5	—	5
	—	—	—	—	—	100	—	100
	—	—	—	—	—	3	—	1
計	141	23	6	55	41	154	7	427
	33	5	1	13	10	36	2	100
	100	100	100	100	100	100	100	100

(注) 上段: 実数, 中段: 地区内業種構成比(%)
下段: 業種別地区構成比(%) ※1 長瀬団地とその隣接地区, ※2 毛呂山台・日生団地・角木団地・日化団地をふくむ。

表 5 形態の分布

	独立型	進出型	内職型	転業型	離農型	在来型	計
長瀬 ※ ¹	58	55	22	19	3	—	157
	37	35	14	12	2	—	100
	53	42	42	30	23	—	37
毛呂	24	43	14	32	4	39	156
	15	28	9	20	3	25	100
	22	33	26	50	31	67	37
東毛呂	15	17	5	3	1	4	45
	33	38	11	7	2	9	100
	13	13	10	5	8	7	10
川角	4	6	7	4	2	14	37
	11	16	19	11	5	38	100
	4	5	12	6	15	24	9
学園台 ※ ²	8	6	4	6	2	1	27
	30	22	15	22	7	4	100
	7	5	8	9	15	2	6
鎌北	1	2	1	—	1	—	5
	20	40	20	—	20	—	100
	1	2	2	—	8	—	1
計	110	129	53	64	13	58	427
	26	30	12	15	3	14	100
	100	100	100	100	100	100	100

(注) 上段：実数，中段：地区内形態構成比(%)
 下段：形態別地区構成比(%) ※¹長瀬団地とその隣接地区。 ※²毛呂山台・日生団地・角木団地・日化団地をふくむ。

の商圈にはいつているために、それが低い。日用食料品商も、長瀬に次いで毛呂に多いが、在来的な集落形態を多く残している川角においても、比較的高率である点が注目される。家具類は、毛呂に多いほか、長瀬・川角・東毛呂にも比較的遍在する。

小売商地域形成の mechanism を端的に示す小売商の形態として、第(1)報において論述した独立型・進出型・内職型・転業型・離農型のほかに、本稿では、在来型をあげる。これは、第2次大戦以前から、現在の場所において、現在の業種(小分類)またはこれと関連の強い業種(同)を操業して、現在に至る店舗である。第(1)報において対象とした店舗は、すべて団地形成後に立地したものであるが、本稿において対象とする店舗のなかには、すでに第2次大戦以前に創業し、戦後の都市化の波によって回生した店舗がふくまれる。これらを、戦後新たに形成された店舗と区別して考える方が、小売商地域

形成の mechanism を解明する上で妥当とみなされるので、在来型を加えたのである(表5)。

形態別にみると、進出・独立両型が多く、その合計は過半をしめ、次いで転業・在来・内職各型、最も少ないのは離農型である。いいかえれば、都市成長

前線帯においては、都市化に伴う商業化の最も大きな波が、進出及び独立によっており、離農による小売商への直接的な転換は、きわめて少ない。また、在来小売商継続の可能性は、内職・転業各型の浮動性と匹敵する数値を示している。

独立型の過半が長瀬に集中することは、第1報⁽¹⁾で論述したように、長瀬団地の性格に根ざすものであり、在来型の多い毛呂・川角では、独立型の比率が、各地区の対全店舗数比に比べて低い。独立・進出各型総数の75%は、長瀬・毛呂に集中するが、進出型は毛呂にも多くみられる。これは、在来的な集落が商業化される場合にも、新興住宅団地の形成による商業化ほどではないとしても、それと一脈相通ずる傾向があることを示している。

内職型も長瀬・毛呂に多いが、毛呂を除く全地区において、各地区の対全店舗数比に比べて高く、都市成長前線帯における小売商の浮動性を示唆している。在来・転業・離農各型の比率は、毛呂において最も高く、店舗数のほぼ等しい新興住宅団地である長瀬地区と全く対比的である。転業型店舗の半ばは、毛呂に分布する。在来型店舗総数の91%は、都市化以前に村落的居住が多くみられた毛呂・川角に集

表 6 前住地の分布

	東京		埼玉			その他	計
	23区	都下	西部山麓	現地	東部		
長瀬 ※ ¹	82	11	19	※ ³ 9	18	18	157
	53	7	13	6	11	11	100
	72	79	15	10	34	62	37
毛呂	13	1	74	51	13	4	156
	8	1	47	33	8	3	100
	11	7	57	58	24	14	37
東毛呂	5	2	24	1	11	2	45
	11	4	54	2	25	4	100
	4	14	18	1	21	7	10
川角	2	—	8	21	4	2	37
	5	—	22	57	11	5	100
	2	—	6	24	8	7	9
学園台 ※ ²	12	—	2	4	6	3	27
	44	—	7	16	22	11	100
	11	—	2	5	11	10	6
鎌北	—	—	2	2	1	—	5
	—	—	40	40	20	—	100
	—	—	2	2	2	—	1
計	114	14	129	88	53	29	427
	27	3	30	21	12	7	100
	100	100	100	100	100	100	100

(注) 上段・実数、中段：地区内前住地構成比(%) 下段：前住地別地区構成比(%)。

※1 長瀬団地とその隣接地区、※2 毛呂山台・日生団地・角木団地・日化団地をふくむ。※3 団地内移動をふくむ。

表7 形態と業種(長瀬)

	一般小売業					サ ー ビ ス 業	ス ー パ ー マ ー ケ ッ ト	計
	日 用 ・ 食 料 品	衣 料 品	身 辺 細 貨 品	家 具 類	文 化 品			
独立型	21	3	2	3	6	23	—	58
	36	5	4	5	10	40	—	100
	37	30	100	23	40	40	—	37
進出型	22	3	—	7	2	17	4	55
	44	6	—	13	3	31	3	100
	40	30	—	54	13	30	100	35
内職型	8	2	—	—	3	9	—	22
	36	9	—	—	14	41	—	100
	14	20	—	—	20	16	—	14
転業型	3	2	—	3	4	7	—	19
	16	10	—	16	21	37	—	100
	5	20	—	23	27	12	—	12
離農型	2	—	—	—	—	1	—	3
	67	—	—	—	—	33	—	100
	4	—	—	—	—	2	—	2
計	56	10	2	13	15	57	2	157
	36	6	1	8	10	36	3	100
	100	100	100	100	100	100	100	100

(注) ※ディスカウントショップをふくむ、上段：実数 中段：形態別業種構成比(%) 下段：業種別形態構成比(%)

農各型の比率が平均している。

前住地の分布をみると(表6)、県内西部山麓(おもに八王子構造線沿い)からの移動が最も多く(30%)、東京23区(27%)がこれに次いでいる。しかも前者の57%は毛呂、後者の72%は長瀬への移動である。西部山麓からの移動による店舗数は、毛呂→東毛呂・長瀬→川角→学園台と東するにしたがって減少し、わ

中する。

形態の分布を地区別にみると、a(新興住宅地)…長瀬・学園台・東毛呂、b(在来的集落)…川角・毛呂、c(観光地)…鎌北の3つに分けられる。aについては、住宅団地規模の小さい学園台では、独立・進出両型の比率が長瀬に比べて相対的に低いが、逆に転業・離農・在来各型の比率が高い。aのなかでは、東毛呂において在来型比率が高く、bとの漸移的傾向を示している。bについては、川角では在来型が38%をしめ、各地区別在来型比率のうちで最高を示すが、独立・進出・転業各型の比率は、いずれも毛呂よりも低く、在来的村落の傾向を濃厚にとどめている。商業化初期における小売商の特質をあらわすものと解される。cでは、進出型を主とするが、独立・内職・離

ずかではあるが鎌北にもみられる。これに対して、東京23区からの移動による店舗の分布は、長瀬以外の地区では、毛呂・学園台のほか、きわめて少ない。

創業以前の居住地が現在の店舗所在地であったものは、大半が毛呂に分布し、これに次いで川角にも多く、さらに長瀬その他にも、わずかに分布する。県内東部からの移動による店舗数の80%近くは、長瀬・毛呂・東毛呂に集まり、学園台・川角・鎌北にもみられる。つまり、県内東部からの商業化の波は、比較的一様に及んでいる。東京都・埼玉県以外の地域からの移動の62%は、長瀬への移動であり、毛呂・学園台・東毛呂・川角がこれに次いでいる。都下からも、その80%近くが長瀬へ移動し、次いで東毛呂・毛呂の順である。いいかえれば、東京都下・23区・その他の各地域からの移動が多い長瀬に対して、創業以前の居住地が現在の店舗所在地であることが多く、また西部山麓からの移動による店舗の多い毛呂が、対照的である。

前住地の分布を地区別にみると、a(新興住宅地)…長瀬・学園台、b(在来

表8 形態と業種(毛呂)

	一般小売業					サービス業	スーパーマーケット	計
	日用・食料品	衣料品	身辺細貨品	家具類	文化用品			
独立型	5	2	—	6	2	9	—	24
	21	8	—	25	8	38	—	100
	10	33	—	25	12	17	—	15
進出型	7	1	2	9	5	17	2	43
	16	2	5	21	12	39	5	100
	14	17	50	38	29	32	67	28
内職型	7	—	1	—	3	3	—	14
	50	—	8	—	21	21	—	100
	14	—	25	—	18	6	—	9
転業型	11	—	—	2	5	14	—	32
	34	—	—	6	16	44	—	100
	23	—	—	8	29	26	—	20
離農型	3	—	—	—	—	1	—	4
	75	—	—	—	—	25	—	100
	6	—	—	—	—	2	—	3
在来型	16	3	1	7	2	9	1	39
	41	7	3	18	5	23	3	100
	33	50	25	29	12	17	33	25
計	49	6	4	24	17	53	3	156
	31	4	3	15	11	34	2	100
	100	100	100	100	100	100	100	100

(注) 上段:実数, 中段:形態別業種構成比(%)
下段:業種別形態構成比(%)

表 9 形態と業種 (東毛呂)

	一般小売業					サ ー ビ ス 業	ス ー パ ー マ ー ケ ッ ト	計
	日 用 ・ 食 料 品	衣 料 品	身 辺 細 貨 品	家 具 類	文 化 品			
独立型	4	1	—	2	—	8	—	15
	27	7	—	13	—	53	—	100
	29	50	—	22	—	50	—	33
進出型	3	1	—	6	1	6	—	17
	18	6	—	35	6	35	—	100
	21	50	—	67	25	37	—	38
内職型	4	—	—	—	1	—	—	5
	80	—	—	—	20	—	—	100
	29	—	—	—	25	—	—	11
転業型	2	—	—	—	1	—	—	3
	67	—	—	—	33	—	—	100
	14	—	—	—	25	—	—	7
離農型	—	—	—	1	—	—	—	1
	—	—	—	100	—	—	—	100
	—	—	—	11	—	—	—	2
在来型	1	—	—	—	1	2	—	4
	25	—	—	—	25	50	—	100
	7	—	—	—	25	13	—	9
計	14	2	—	9	4	16	—	45
	31	4	—	20	9	36	—	100
	100	100	—	100	100	100	—	100

(注) 上段：実数，中段：形態別業種構成比(%)
下段：業種別形態構成比(%)

的集落) …川角・鎌北, c (中間型) …東毛呂・毛呂の3つに分けられる。aは東京23区からの移動, bは現地, cは西部山麓が, 各前住地の首位をしめている。

2 地域的展開

(1) 形態と業種(表7～表11)

日用・食料品商の多く(77%)が進出・独立両型でしめられるのは長瀬だけであり, 東毛呂(50%)がこれに次いでいる。東毛呂では, 独立・内職両型の比率がともに首位をしめている。学園台では, 転業・離農両型を合わせると49%に達する。在来型の比率が高いのは川角(50%)であり, 毛呂(33%)がこれに次いでいる。

衣料品商については, 独立型の比率が高いのは, 東毛呂(50%)・毛呂(33%)・長瀬(30%)である。進出型の比率は, 川角・東毛呂(各50%), 長瀬(30%)の順に高い。内職・転業両型は

長瀬だけに分布し, しかもその比率は各20%に達する。

身近細貨品商は, 長瀬では独立型, 毛呂では進出型に次いで内職・在来両型であり, その他の地区には分布しない。

文化品商については、学園台の独立・進出両型、川角の内職型の比率がともに高く、川角の離農型、毛呂の進出・転業両型、長瀬の転業型、東毛呂の進出・内職・転業・在来各型が、これに次いでいる。

サービス業については、独立型の比率が東毛呂・長瀬・学園台において高く、進出型の比率は、鎌北・東毛呂・毛呂・長瀬・学園台の順に高い。内職型の比率は、毛呂・川角・鎌北において比較的高く、長瀬・学園台がこれに次いでいる。スーパーマーケットは、長瀬では進出型、毛呂では進出型に次いで在来型となっている。

独立型店舗の比率は、川角を除く全地区において、サービス業が筆頭である。とくに学園台・東毛呂において、その比率が高く、長瀬・毛呂がこれに次いでいる。日用・食料品商の比率は、川角において高く、長瀬・東毛呂・学園台においても、サービス業に次ぐ比率となっている。毛呂及び川角では、家具類商の比率も比較的高い。

進出型店舗の比率は、学園台・東毛呂・毛呂においては、サービス業に次い

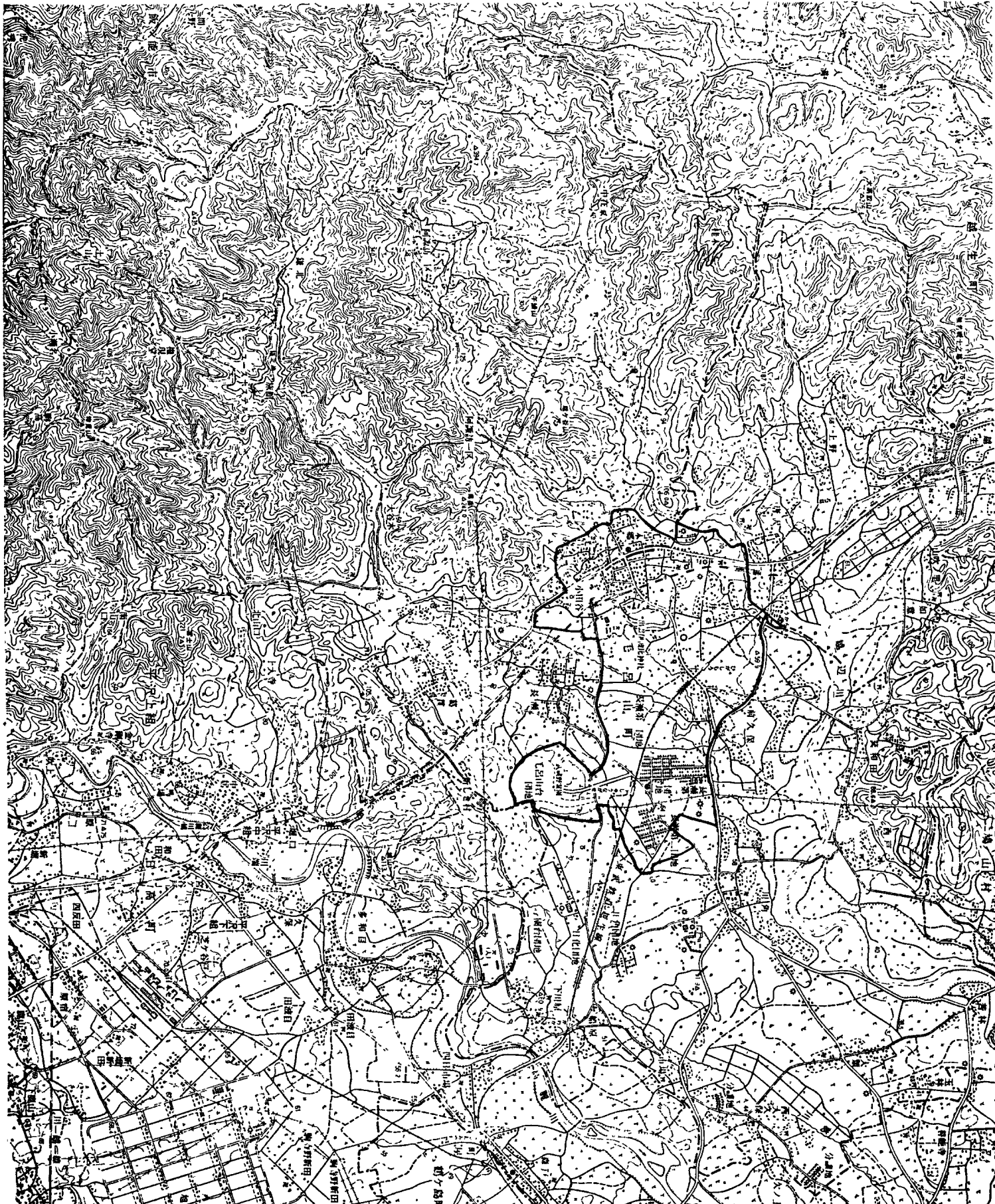
表10 形態と業種(川角)

	一般小売業					サービス業	スーパーマーケット	計
	日用・食料品	衣料品	身近細貨品	家具類	文化品			
独立型	2	—	—	1	—	1	—	4
	50	—	—	25	—	25	—	100
	13	—	—	11	—	13	—	11
進出型	1	2	—	3	—	—	—	6
	17	33	—	50	—	—	—	100
	6	50	—	33	—	—	—	16
内職型	2	—	—	1	2	2	—	7
	29	—	—	13	29	29	—	100
	13	—	—	11	67	25	—	19
転業型	3	—	—	1	—	—	—	4
	75	—	—	25	—	—	—	100
	18	—	—	11	—	—	—	11
離農型	—	—	—	—	1	1	—	2
	—	—	—	—	50	50	—	100
	—	—	—	—	33	13	—	5
在来型	8	2	—	3	—	1	—	14
	57	14	—	22	—	7	—	100
	50	50	—	33	—	50	—	38
計	16	4	—	9	3	5	—	37
	43	11	—	24	8	14	—	100
	100	100	—	100	100	100	—	100

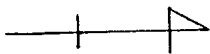
(注) 上段：実数，中段：形態別業種構成比(%)

下段：業種別形態構成比(%) 構成比(%)の端数を4捨5入したため※1は99%，※2は101%。

毛呂山町及び周辺



0 500m



(注) 実線内は毛呂山町の市街化区域を示す。

表11 形態と業種(学園台)

	一般小売業					サービス業	スーパーマーケット	計
	日用・食料品	衣料品	身辺細貨品	家具類	文化品			
独立型	1	—	—	—	1	6	—	8
	13	—	—	—	13	74	—	100
	17	—	—	—	50	33	—	30
進出型	1	—	—	—	1	4	—	6
	17	—	—	—	17	66	—	100
	17	—	—	—	50	22	—	22
内職型	1	1	—	—	—	2	—	4
	25	25	—	—	—	50	—	100
	17	100	—	—	—	11	—	15
転業型	2	—	—	—	—	4	—	6
	33	—	—	—	—	67	—	100
	32	—	—	—	—	22	—	22
離農型	1	—	—	—	—	1	—	2
	50	—	—	—	—	50	—	100
	17	—	—	—	—	6	—	7
在来型	—	—	—	—	—	1	—	1
	—	—	—	—	—	100	—	100
	—	—	—	—	—	6	—	4
計	6	1	—	—	2	18	—	27
	22	4	—	—	7	67	—	100
	100	100	—	—	100	100	—	100

(注) 上段:実数,中段:形態別業種構成比(%)
下段:業種別形態構成比(%)

で日用・食料品商の順に高いが、長瀬では、その順位が逆である。家具類の比率が比較的高いのは、川角・東毛呂・毛呂である。

内職型店舗については、日用・食料品商がおもで、サービス業ないし文化品の比率がこれに次ぐ東毛呂・毛呂、この3者の比率が等しい川角、サービス業に次いで日用・食料品商の比率が高い長瀬・学園台の3つに分けられる。

転業型店舗については、日用・食料品商に次いで家具類商ないし文化品商の比率が高い川角・東毛呂、サービス業に次いで日用・食料品商ないし文化品商の比率が高い長瀬・毛呂・学園台の2つに分けられる。

離農型店舗については、日用・食料品商がおもでサービス業もみられる長瀬・毛呂、両者の比率が等しい学園台、家具類商、文化品商・サービス業の比率

が高い東毛呂・川角の3つに分けられる。在来型店舗については、日用・食料品商がおもでサービス業ないし家具類商がこれに次ぐ毛呂・川角と、サービス業が首位をしめる東毛呂・学園台の2つに分けられる。

表12 形態と前住地(長瀬)

	東京		埼玉			その他	計
	23区	都下	西部山麓	現*地	東部		
独立型	42	2	5	—	6	3	58
	72	4	9	—	10	5	100
	51	18	26	—	33	17	37
進出型	15	7	9	5	9	10	55
	28	13	16	9	16	18	100
	18	64	47	56	50	56	35
内職型	12	1	2	2	3	2	22
	55	4	9	9	14	9	100
	15	9	11	22	17	10	14
転業型	13	1	—	2	—	3	19
	68	5	—	11	—	16	100
	16	9	—	22	—	17	12
離農型	—	—	3	—	—	—	3
	—	—	100	—	—	—	100
	—	—	16	—	—	—	2
計	82	11	19	9	18	18	157
	53	7	12	6	11	11	100
	100	100	100	100	100	100	100

(注) 上段：実数，中段：形態別前住地構成比(%) 下段：前住地別形態構成比(%) ※ 団地内移動をふくむ。

表13 形態と前住地(毛呂)

	東京		埼玉			その他	計
	23区	都下	西部山麓	現地	東部		
独立型	4	—	9	4	6	1	24
	17	—	37	17	25	4	100
	31	—	12	8	50	25	15
進出型	2	1	37	—	3	—	43
	5	2	86	—	7	—	100
	15	100	50	—	25	—	28
内職型	3	—	5	6	—	—	14
	21	—	36	43	—	—	100
	23	—	7	11	—	—	9
転業型	3	—	7	20	1	1	32
	9	—	22	63	3	3	100
	23	—	9	38	8	25	20
離農型	—	—	—	4	—	—	4
	—	—	—	100	—	—	100
	—	—	—	8	—	—	3
在来型	1	—	16	17	3	2	39
	3	—	41	46	5	5	100
	8	—	22	35	17	50	25
計	13	1	74	51	13	4	156
	8	1	47	33	8	3	100
	100	100	100	100	100	100	100

(注) 上段：実数，中段：形態別前住地構成比(%) 下段：前住地別形態構成比(%)

(2) 形態と前住地(表12~表17)

東京23区からの移動による店舗は、鎌北を除く全地区において、独立型の比率が首位をしめる。東毛呂と川角では、独立・在来両型の店舗であり、長瀬・毛呂・学園台では、進出・転業・内職型の比率がこれに次いでいる。

東京都下からの移動による店舗は、長瀬・毛呂・東毛呂において、進出型の

表14 形態と前住地(東毛呂)

	東京		埼玉			その他	計
	23	都	西部山麓	現地	東部		
	区	下					
独立型	3	—	6	—	5	1	15
	20	—	40	—	33	7	100
	60	—	25	—	45	50	33
進出型	—	1	10	—	5	1	17
	—	6	59	—	29	6	100
	—	50	42	—	45	50	38
内職型	—	—	4	1	—	—	5
	—	—	80	20	—	—	100
	—	—	17	100	—	—	11
転業型	—	1	2	—	—	—	3
	—	33	67	—	—	—	100
	—	50	8	—	—	—	7
離農型	—	—	—	—	1	—	1
	—	—	—	—	100	—	100
	—	—	—	—	10	—	2
在来型	2	—	2	—	—	—	4
	50	—	50	—	—	—	100
	40	—	8	—	—	—	9
計	5	2	24	1	11	2	45
	11	4	54	2	25	4	100
	100	100	100	100	100	100	100

(注) 上段：実数，中段：形態別前住地構成比(%) 下段：前住地別形態構成比(%)

表15 形態と前住地(川角)

	東京		埼玉			その他	計
	23	都	西部山麓	現地	東部		
	区	下					
独立型	1	—	—	1	2	—	4
	25	—	—	25	50	—	100
	50	—	—	5	50	—	11
進出型	—	—	4	—	1	1	6
	—	—	66	—	17	17	100
	—	—	50	—	25	50	16
内職型	—	—	2	5	—	—	7
	—	—	29	71	—	—	100
	—	—	25	24	—	—	19
転業型	—	—	—	3	—	1	4
	—	—	—	75	—	25	100
	—	—	—	14	—	50	11
離農型	—	—	—	2	—	—	2
	—	—	—	100	—	—	100
	—	—	—	9	—	—	5
在来型	1	—	2	10	1	—	14
	7	—	14	72	7	—	100
	50	—	25	48	25	—	38
計	2	—	8	21	4	2	37
	5	—	22	57	11	5	100
	100	—	100	100	100	100	100

(注) 上段：実数，中段：形態別前住地構成比(%) 下段：前住地別形態構成比(%)

比率が首位をしめる。長瀬では、独立・転業・内職3型の比率がこれに次ぎ、東毛呂では、進出・転業両型が相半ばする。

西部山麓からの移動による店舗は、学園台を除く全地区において、進出型の比率が首位をしめる。進出型に次ぐのは、毛呂では在来型・独立型・転業型・内職型、長瀬では独立型・離農型・在来型の順である。さらに東毛呂では、独

立・内職・転業・在来各型，川角では，在来・内職両型が，ともに進出型に次いでいる。鎌北では進出・独立両型，学園台では独立・転業両型の比率が，ともに相半ばしている。

創業以前の居住地が現在の店舗所在地であったものの比率は，川角では在来型が首位で，内職・転業・独立・離農各型の順であり，毛呂では転業型が首位で，在来，内職，独立・離農各型の順である。

毛呂と川角について，形態別前住地構成比を比較すると，毛呂では独立・進出両型を除いて現地の比率が高く，川角では，西部山麓の比率が現地のそれを越えるのは進出型だけである。学園台では，離農型が首位で内職・在来両型がこれに次ぎ，鎌北では，内職・離農両型が相半ばする。進出型が首位をしめる長瀬においても，これに次ぐ内職・転業両型が相半ばし，さらに東毛呂では，内職型である。いいかえれば，従前からの居住者が都市化・商業化の波を受けて創業した店舗は，毛呂山町全域にわたって，内職段階で営業する底流がみられ，都市成長前線帯の特質を示唆している。

埼玉東部からの移動による店舗は，一般に独立・進出両型の比率が高い。独

表16 形態と前住地 (学園台)

	東京		埼玉		その他	計	
	23区	都下	西部山麓	現地			東部
独立型	4	—	1	—	2	1	8 ^{*1}
	50	—	13	—	25	13	100
	33	—	50	—	29	33	30
進出型	3	—	—	—	2	1	6
	50	—	—	—	33	17	100
	25	—	—	—	29	33	22
内職型	2	—	—	1	1	—	4
	50	—	—	25	25	—	100
	17	—	—	25	14	—	15
転業型	3	—	1	—	1	1	6 ^{*1}
	50	—	17	—	17	17	100
	25	—	50	—	29	33	22
離農型	—	—	—	2	—	—	2
	—	—	—	100	—	—	100
	—	—	—	50	—	—	7
在来型	—	—	—	1	—	—	1
	—	—	—	100	—	—	100
	—	—	—	25	—	—	4
計	12	—	2	4	6	3	27
	44	—	7	16	22 ^{*1}	11 ^{*2}	100
	100	—	100	100	100	100	100

(注) 上段：実数，中段：形態別前住地構成比 (%) 下段：前住地別形態構成比 (%)
構成比 (%) の端数を4捨5入したため※1は101%，※2は99%。

表17 形態と前住地(鎌北)

	埼玉			計
	西部山麓	現地	東部	
独立型	1	—	—	1
	100	—	—	100
	50	—	—	20
進出型	1	—	1	2
	50	—	50	100
	50	—	100	40
内職型	—	1	—	1
	—	100	—	100
	—	50	—	20
転業型	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—
離農型	—	1	—	1
	—	100	—	100
	—	50	—	20
在来型	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—
計	2	2	1	5
	40	40	20	100
	100	100	100	100

(注) 上段：実数，中段：形態別前住地構成比(%) 下段：前住地別形態構成比(%)

立型が首位をしめ，進出・在来両型がこれに次ぐのは毛呂・川角であり，毛呂では，さらに転業型もみられる。独立・進出両型の比率が等しいのは，東毛呂・学園台であり，東毛呂では離農型，学園台では転業・内職両型が次いでいる。これに対して長瀬では，進出型の比率が首位をしめ，次いで独立・内職両型の順であり，鎌北では進出型である。

その他地区からの移動による店舗は，一般に進出型の比率が高い。しかし毛呂では，在来型の比率が首位で，独立・転業両型がこれに次いでいる。川角では進出・転業両型，東毛呂では進出・独立両型，また学園台では進出・独立・転業3型の比率が各等しく，長瀬では，進出型の比率が首位で，独立・転業両型，内職型の順である。

形態別にみると，独立型店舗については，長瀬・学園台では，前住地比率が東京23区を首位とし，埼玉東部・西部山麓・その他の順を示す。これに対して，西部山麓の比率を首位とし，埼玉東部・東京23区の順を示すのは毛呂・東毛呂であり，鎌北では西部山麓となっている。一方，川角では，埼玉東部が首位で，東京23区・現地がこれに次いでいる。

進出型店舗の前住地についても，西部山麓の比率が首位で埼玉東部がこれに次ぐ毛呂・東毛呂・川角に対して，東京23区の比率を首位とする長瀬・学園台が区別される。学園台では，東京23区が半ばをしめ，これに次ぐ東部，その他地区の比が2：1であるのに対して，長瀬では，首位である東京23区が28%で

あるほか、他の各地区の比率の差が比較的少ない。これには、もとより長瀬団地の規模が学園台のそれよりも大きいことが関係しているが、長瀬におけるかかる前住地の遍在は、他の各地区における形態ではみられない。すなわち、都市成長前線帯において、多方面からの転入者によって小売商地域が形成されることは一般的ではなく、かかる現象は、やや規模の大きい団地⁽¹⁾における進出型小売商の場合にみられるものといえよう。なお鎌北では、西部山麓と埼玉東部からの移動が相半ばしている。

内職型店舗の前住地については、a…現地の比率が首位で西部山麓がこれに次ぐ毛呂・川角⁽²⁶⁾、b…東京23区の比率が首位で、続いて埼玉東部・現地の順を示す長瀬・学園台、c…西部山麓の比率が首位で現地がこれに次ぐ東毛呂の3つに分けられる。つまり、都市成長前線帯において、aは、旧来の村落居住者が内職として小売商を始めることが多い地域、bは、住宅団地の成立に伴って、東京23区からの転入者が内職的小売商を

表18 業種と前住地(長瀬)。

		東京		埼玉			その他	
		23区	都下	西部山麓	※現地	東部		
一般小売業	日用・食料	24	6	11	4	7	4	56
		43	11	20	7	12	7	100
		32	55	61	40	39	22	36
	衣料品	5	1	—	—	2	2	10
		50	10	—	—	20	20	100
		6	9	—	—	11	11	6
	身辺細貨品	2	—	—	—	—	—	2
		100	—	—	—	—	—	100
		2	—	—	—	—	—	1
	家具類	6	1	2	2	2	—	13
		47	8	15	15	15	—	100
		7	9	11	20	11	—	8
文化品	10	1	—	—	—	4	15	
	67	6	—	—	—	27	100	
	12	9	—	—	—	22	10	
サービス業	34	2	4	3	6	8	57	
	60	3	7	5	11	14	100	
	41	18	22	30	33	45	36	
スーパーマーケット	1	—	1	1	1	—	4	
	25	—	25	25	25	—	100	
	1	—	6	10	6	—	3	
計	82	11	18	10	18	18	157	
	53	7	13	6	11	11	100	
	100	100	100	100	100	100	100	

(注) 上段：実数，中段：業種別前住地構成比(%)。
 ※下段：前住地別業種構成比(%)。団地内移動をふくむ。

表19 業種と前住地(毛呂)

		東京		埼玉			その他	計
		23	都	西部	現	東		
		区	下	山麓	地	部		
一般	日用・食品	3	1	17	22	5	1	49
		6	2	35	45	10	2	100
		23	100	23	43	38	25	31
小売業	衣料品	1	—	3	2	—	—	6
		17	—	50	33	—	—	100
		8	—	4	4	—	—	4
小売業	身細貨品	1	—	1	1	1	—	4
		25	—	25	25	25	—	100
		8	—	1	2	8	—	3
小売業	家具類	1	—	15	7	—	1	24
		4	—	63	29	—	4	100
		8	—	20	14	—	25	15
小売業	文化品	2	—	9	4	2	—	17
		12	—	53	23	12	—	100
		15	—	12	8	16	—	11
サービス業	サービス業	5	—	27	15	5	1	53
		9	—	51	29	9	2	100
		38	—	37	29	38	25	34
スーパーマーケット	スーパーマーケット	—	—	2	—	—	1	3
		—	—	67	—	—	33	100
		—	—	3	—	—	25	2
計	計	13	1	74	51	13	4	156
		8	1	47	33	8	3	100
		100	100	100	100	100	100	100

(注) 上段：実数，中段：業種別前住地構成比(%)
下段：前住地別業種構成比(%)

始めることが多い地域，cはa・bの中間に位置し，しかも旧来の村落居住者密度がa・bの中間を示し，旧来の交流の中心地——この場合には西部山麓の溪口集落——からの転入者が，内職的小売商を始めることが多い地域とみられる。

転業型店舗についても，首位の比率を示す前住地が現地である毛呂・川角，東京23区である長瀬・学園台，西部山麓である東毛呂の3つに分かれる。とくに長瀬では，東京23区に次いでその他地区，毛呂では現地に次いで西部山麓となっていて，対照的である。

離農型店舗については，前住地が現地である毛呂・川角・学園台・鎌北，西部山麓である長瀬，埼玉東部である東毛呂の3つに分かれる。

在来型店舗の前住地については，一般に，現地に次いで西部山麓の比率が高い。毛呂及び川角はその典型であり，東毛呂で

は西部山麓と東京23区が相半ばし，学園台では現地となっている。

(3) 業種と前住地(表18~表22)

東京23区からの移動による店舗は、一般に、サービス業に次いで日用・食料品商の比率が高い。しかし川角では、家具類商と衣料品商であり、鎌北には分布しない。これに対して、都下からの移動による店舗の分布は長瀬と毛呂にかぎられ、とくに長瀬では、日用・食料品商に次いでサービス業の順になっている。

西部山麓からの移動による店舗も、長瀬では、日用・食料品商の比率が首位をしめ、サービス業がこれに次ぐが、毛呂・東毛呂では、その順位が逆である。川角では、家具類商の比率に次いで衣料品商となっており、学園台では、サービス業と衣料品商が相半ばしている。

創業以前の居住地が現在の店舗所在地であったものは、学園台を除くと、日用・食料品商の比率が首位である。東毛呂では日用・食料品商だけであり、長瀬・毛呂・川角では、日用・食料品商の比率に次いで、サービス業・家具類商の順になっている。しかし学園台では、サービス業の比率が首位で、日用・食料品商がこれに次いでいる。

表20 業種と前住地(東毛呂)

		東京		埼玉			その他	計
		23区	都下	西部山麓	現地	東部		
一般	日用・食料品	1	—	8	1	3	1	14
		7	—	57	7	22	7	100
		20	—	33	100	27	50	31
小売業	衣料品	1	—	1	—	—	—	2
		50	—	50	—	—	—	100
		20	—	4	—	—	—	4
小売業	家具類	—	—	4	—	4	1	9
		—	—	44	—	44	11	100*
		—	—	17	—	37	50	20
小売業	文化品	1	1	1	—	1	—	4
		25	25	25	—	25	—	100
		20	50	4	—	9	—	9
サービス業	サービス業	2	1	10	—	3	—	16
		13	6	62	—	19	—	100
		40	50	42	—	27	—	36
スーパーマーケット	スーパーマーケット	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—
計	計	5	2	24	1	11	2	45
		11	4	54	2	25	4	100
		100	100	100	100	100	100	100

(注) 上段：実数，中段：業種別前住地構成比(%)
下段：前住地別業種構成比(%) ※構成比の端数を4捨5入したため99%。

表21 業種と前住地(川角)

	東京		埼玉			その他	計	
	23区	都下	西部山麓	現地	東部			
一般小売業	日用・食品	—	—	1	11	2	2	16 ^{*1}
		—	—	6	69	13	13	100
		—	—	13	52	50	100	43
	衣料品	1	—	2	—	1	—	4
		25	—	50	—	25	—	100
	50	—	25	—	25	—	11	
家具類	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
文化品	1	—	4	4	—	—	9 ^{*2}	
	11	—	44	44	—	—	100	
	50	—	50	19	—	—	24	
サービス業	—	—	1	2	—	—	3	
	—	—	33	67	—	—	100	
	—	—	13	10	—	—	8	
スーパーマーケット	—	—	—	4	1	—	5	
	—	—	—	80	20	—	100	
	—	—	—	19	25	—	14	
計	2	—	8	21	4	2	37	
	5	—	22 ^{*1}	57	11	5	100	
	100	—	100	100	100	100	100	

(注) 上段：実数，中段：業種別前住地構成比(%)，
 下段：前住地別業種構成比(%) 構成比(%)の端
 数を4捨5入したため※1は101%，※2は99%。

商，さらに衣料品商の順となっている。川角では日用・食料品商だけであり，東毛呂では，日用・食料品商と家具類商が相半ばしている。

埼玉東部からの移動による店舗は，長瀬・川角では，日用・食料品商の比率に次いでサービス業・衣料品商となっている。これに対して東毛呂では，家具類商の比率が首位で，同率の日用・食料品商とサービス業が次いでいる。毛呂でも，日用・食料品商とサービス業の比率は同じであり，しかも首位をしめていて，文化品商・身近細貨品商の順となっている。一方，学園台では，サービス業の比率が首位で，次いで日用・食料品商となっている。

その他地区からの移動による店舗は，サービス業の比率が高い学園台・長瀬，日用・食料品商の比率が高い川角・東毛呂，日用・食料品商，家具類商，サービス業，スーパーマーケットの比率が同じである毛呂の3つに分けられる。すなわち，学園台ではサービス業だけであり，長瀬では，サービス業に次いで，同率の日用・食料品商と文化品

業種別にみると、日用・食料品商は、前住地の首位が東京23区である長瀬・学園台、同じく現地である毛呂・川角、また西部山麓である東毛呂の3つに分けられる。すなわち、学園台では、東京23区が半ばをしめ、これに次ぐ埼玉東部・その他地区の比が2:1であるのに対して、長瀬では、東京23区の比率が43%、これに次ぐ西部山麓は20%で、その他の各地区の比率の差が比較的小さい。このような前住地の遍在は、すでに指摘したように長瀬の進出型においてみられるが、さらに業種別にみれば、日用・食料品商において顕著であることが注目される。毛呂では、首位である現地の比率が45%、これに次ぐ西部山麓・埼玉東部のそれが各35%・10%であるのに対して、川角では、現地69%、埼玉東部・その他地区各13%、西部山麓6%である。すでに指摘したように、形態別の西部山麓(前住地)の比率

は、独立・転業・在来各型では、川角よりも毛呂において高く、進出・内職両型では、毛呂よりも川角において高いのであるが、業種的には、各業種とも、

表22 業種と前住地(学園台)

		東京		埼玉			その他	計
		23区	都下	西部山麓	現地	東部		
一般小売業	日用・食料品	3	—	—	1	2	—	6
		50	—	—	17	33	—	100
		25	—	—	25	33	—	22
	衣料品	1	—	—	—	—	—	1
		100	—	—	—	—	—	100
身細貨品	8	—	—	—	—	—	4	
	—	—	—	—	—	—	—	
家具類	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	
文化品	—	—	—	—	—	—	—	
	1	—	1	—	—	—	2	
サービス業	50	—	50	—	—	—	100	
	8	—	50	—	—	—	7	
スーパーマーケット	7	—	1	3	4	3	18	
	39	—	5	17	22	17	100	
	59	—	50	75	67	100	67	
計	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	
計	12	—	2	4	6	3	27	
	44	—	7	16	22	11	100	
	100	—	100	100	100	100	100	

(注) 上段：実数，中段：業種別前住地構成比(%)
下段：前住地別業種構成比(%)

川角よりも毛呂において、西部山麓の比率が高く、日用・食料品商では、西部山麓に次いで埼玉東部、東京23区・現地・その他地区(3区とも同率)の順である。

衣料品商については、一般に、東京23区と西部山麓を前住地とするものの比率が高い。長瀬と学園台は東京23区、毛呂と川角は西部山麓を各首位比率とし、東毛呂では、両地区相半ばする。学園台における衣料品商の前住地は東京23区だけであるが、長瀬では、東京23区が半ばをしめ、これに次ぐ埼玉東部・その他地区・東京都下の比は2:2:1である。川角では、西部山麓・埼玉東部・東京23区の比が2:1:1であるが、毛呂では、西部山麓・現地・東京23区の比が3:2:1であり、かかる移動を通じて、毛呂は川角よりも、首都圏の外側に近い性格を示すものといえよう。

身辺細貨品商の前住地についても、長瀬と毛呂は対照的である。すなわち、長瀬では、東京23区にかぎられるのに対して、毛呂では、東京23区・西部山麓・現地・埼玉東部に等分されている。

家具類商の前住地については、東京23区の比率を首位とする長瀬に対して、西部山麓の比率を首位とする毛呂・東毛呂・川角が区別される。長瀬では、東京23区がほぼ半ばをしめ、次いで西部山麓・現地・埼玉東部、東京都下の順である。毛呂・川角では、西部山麓・現地の両比率を合わせると90%近くになるが、川角では、毛呂よりも現地の比率が高い。東毛呂では、西部山麓と埼玉東部が同率であって、これらの合計は90%に近く、その他地区がこれに次いでいる。

文化品商については、東京23区からの移動による店舗の比率が首位をしめるのが、長瀬であるのに対して、同じく西部山麓が首位をしめるのは毛呂である。学園台では、東京23区と西部山麓が相半ばしており、長瀬と毛呂の中間的傾向をみせている。長瀬では、その他地区と東京都下が、東京23区に次いでいるが、毛呂では、西部山麓に次ぐのは、現地、東京23区・埼玉東部の順である。しかし川角では、現地:西部山麓の比が2:1という在地性の強さを示し、逆に東毛呂では、現地及びその他地区を除く前住地に一様に分布して、在地性の弱さをあらわしている。

サービス業の前住地については、東京23区からの移動による店舗の比率が首位をしめる長瀬・学園台、同じく西部山麓が首位をしめる毛呂・東毛呂、現地が首位である川角の3つに分けられる。長瀬と学園台の分布の pattern は類似するが、長瀬は学園台よりも、東京23区の比率が高い。西部山麓に次いで、毛呂では現地、東京23区・埼玉東部、その他地区の順であるのに対して、東毛呂では、埼玉東部、東京23区、東京都下が次いでおり、毛呂が、東毛呂に比べて、在地的傾向の強いことをあらわしている。在地的傾向の最も強い川角では、現地の比率が80%をしめ、残りが埼玉東部となっており、東方からの小売商進出の影響を、わずかながら受けている。

スーパーマーケット進出の拠点⁽²⁸⁾は、長瀬では東京23区・西部山麓・現地・埼玉東部に4等分され、毛呂では西部山麓が大半をしめており、毛呂山町における小売商地域の東西両核心とみられる長瀬・毛呂の特質を、よく示している。つまり、東京資本による新興住宅団地を市場として形成された小売商地域⁽¹⁾(長瀬)におけるスーパーマーケットの進出拠点は、前述の一般小売業及びサービス業ほど顕著な東京化を示唆しないが、多面的な性格をもつ地域から進出したことを物語っている。これに対して、溪口集落としての毛呂では、西部山麓との強い connection が、前述の一般小売業及びサービス業の場合よりも顕著にあらわれている。

IV 結 語

以上のように、埼玉県毛呂山町における長瀬・毛呂・東毛呂・川角・学園台・鎌北の6小売商地域形成の mechanism を分析することによって、都市化に基づく商業化の地域構造を解明する手がかりを得ることができた。各小売商地域は、業種・形態・前住地3者相互の関連の仕方を通じて、顕著な特質を具現する。観光地型の鎌北をしばらく措くとしても、新興住宅団地の成立に伴って形成された長瀬・学園台、商業化しつつある溪口集落としての毛呂、商業化初期の段階にある台地上の街村川角、毛呂・川角・長瀬の構成要素を mix した東毛呂の各小売商地域が、首都圏の都市成長前線帯のなかで、特有の反応を

示しつつある。本稿において問題とした商業化の process は、都市化の現代的意義を考察する上で、1つの視角を呈示することになる。

〔注〕

- (1) 田村正夫(1973)：首都圏の都市成長前線帯における小売商の形成——埼玉県毛呂山町長瀬団地の場合——歴史地理学紀要15.
- (2) 本稿は、1972年3月31日、歴史地理学会大会(於駒沢大学)における口頭発表にあたって、板倉勝高が行なった団地以外の地域における小売商の形成に関する質問に応ずることにもなる。
- (3) 日本地理学会(1972, 4)日本地理学会予稿集 pp. 193~4.
- (4) 森川洋(1972)：日本地理学会春季大会記事, 地理評 45. 7. p. 523
- (5) 田辺健一(1971)：国土と都市化, 序, 講座, 都市と国土 2 pp. 2~3.
- (6) 渡辺良雄(1971)：中心地と階層構造と国土, 前掲書 p. 117.
- (7) 高野史男(1973)：西南日本諸都市の産業基盤について, 地理評 46. 3. pp. 217~8.
- (8) 奥田義男(1971)：社会経済地理学論攷, まえがき, p. 1.
- (9) 全数調査を行なった理由については, (1)参照。
- (10) この点については, 田村正夫(1972)：産業化地域論, p. 209. (8)参照。
- (11) 日本能率協会・総合調査統計研究所(1970)：東京マーケティングエリア, 総合編, 第3部マップ。
- (12) 同上, 第2図(1965)
- (13) 同上, 第6図(1965)
- (14) 同上, 第7図(1965~68年の増加率)
- (15) 千葉県では, 人口増加率の中間地域(100~119%)が少なく, 高率地域(130%以上)が多い。
- (16) (11), 第8図(昼間/夜間人口比, 1965)
- (17) 同上, 第11図(1963~66の増加率)
- (18) 同上, 第12図(1965・66)
- (19) 同上, 第13図(1966)
- (20) 同上, 第14図(1966)
- (21) 同上, 第15・16両図(1968)
- (22) 毛呂山町(1972)：町勢要覧 pp. 1~2.
- (23) 学園台の1部は, 坂戸町のK団地ショッピングセンターの商圈にもはいつている。
- (24) 長瀬では, 現在, さらにSスーパー(チェーン・ストア)が建築中である。
- (25) 前述のように, 本格的な都市化は1965年以降であるが, 第2次大戦直後から, 緩慢ながらも, 都市化の端ちがみられた。
- (26) 前住地が現地である内職型店舗だけしかみられない鎌北も, このなかにふくめられる(表17)
- (27) 長瀬では, 家具類商が衣料品商と同率であり, さらにスーパーマーケットがこれに次いでいる(表18)
- (28) 表19のスーパーマーケット欄, その他地区にみられる店舗の創業は, 1911年であり, 当主は3代目である。当初から生鮮食料品を多角的に販売し, 本格的な総合食品に転じたのは1965年であるが, スーパーマーケットの関連業種が戦前から営まれていたものと考えて, 在来型に分類した。初代は新潟県からの来住であるために, その他地区からの移動となっている特殊な例である。ちなみに, 毛呂には, 18世紀中ごろ以降新潟県, 19世紀末ごろ滋賀から各杜氏の系譜にかかわる人々が来住し, 現在, 醸造以外の小売業にも従事している。なお, 在来型に関する詳細な分析は, 後日稿を改めて論じたい。